

【原著】

長期にわたるニコチンガム依存症に対して、 バレニクリンが有用であった一症例

服部素子¹⁾ 高橋裕子²⁾

要 旨

禁煙には成功したものの10年以上の長期にわたって一日30個程度のニコチンガムを継続使用していた事例で、短期間のバレニクリン内服が契機となってニコチンガムから離脱できた1症を報告した。バレニクリンはニコチンガム依存症の治療に役立つと考えた。

キーワード：ニコチンガム依存症、バレニクリン、ニコチン依存症、禁煙

はじめに

喫煙と受動喫煙の有害性やニコチン依存症が治療対象となる疾患であることが広く認識され、わが国では1994年からニコチンガムの使用が認可された。しかしながらニコチンガム使用者の一部に、ニコチンガムの使用を止めることができない状況が生じることが観察され、ニコチンガム依存と考えられている。1年以上にわたるニコチンガム依存症の発生は海外ではニコチンガム使用者の13-38%¹⁾²⁾と報告され、わが国³⁾⁴⁾でも1999年に一般医薬品として販売されるようになってから増加していると思われる。

しかしニコチンガム依存の治療法は確立されておらず、バレニクリンによるニコチンガム依存症治療の奏功例の報告は少ない⁵⁾⁶⁾。また10年以上の長期にわたるニコチンガム依存症が短期間のバレニクリン治療で著効を見た報告はない。

今回、自由診療によるニコチンガム使用開始から12年、完全禁煙から10年にわたりニコチンガムを継続使用し一日使用量が30個に達していた重度ニコチンガム依存に対して、バレニクリン内服治療を行い成功した症例を経験したので報告する。

症 例

患 者：57歳 男性

主 訴：ニコチンガムの使用が中止できない。

職業歴：自営業

既往歴：1999年2月 胆石症で胆嚢摘出術

喫煙歴：18歳より46歳までの29年間、一日20～40本（ブリンクマン指数：580～1,160）。

現 病 歴

1998年5月27日に禁煙を希望して当院禁煙外来を受診した。当時日本国内で禁煙に使用しうる薬剤は自由診療にて処方されるニコチンガムのみであったことから、ニコチンガムを用いての禁煙開始を試みることとなった。当初の一日使用量は12個で以後漸減予定との指示を受けたが、ニコチンガムの味のまずさと口内炎罹患により、数個使用しただけで自己判断にてニコチンガム使用を中止し、喫煙本数も元に戻っていた。

1999年6月18日インターネット禁煙マラソンに参加して再度禁煙を開始した。以後現在に至るまで、完全に禁煙している。

しかし禁煙後1ヶ月頃より便秘と残便感が出現し、試みに残っていたニコチンガムを使用したところ便通が改善したことを契機に、ニコチンガムを継続的に使用するようになった。1999年12月にはニコチンパッチが

1) 本荘内科・呼吸器科

2) 奈良女子大学

責任者連絡先：服部素子

岐阜県岐阜市早苗町1丁目24番地

ベルハウス1階C室 (〒500-8324)

本荘内科・呼吸器科

TEL：058-251-2530 FAX：058-252-3387

E-mail：mhattori@city.gifu.med.or.jp

日本国内で処方できるようになり処方を受けた。しかし物足りない感じがあり、すぐにニコチンガムの使用に戻った。1999年9月13日から2001年8月31日までの2年間に、自由診療でニコチンガム3,300個の処方を受けた。

当初は1日7~8個の使用であったが、2001年以後はインターネットによる個人輸入を通じての入手が容易になり、毎日30個程度使うようになった。禁煙外来にてニコチンガムの正しい噛み方の指導を受け、ガムを錠等で切って小さいサイズで使用する、漸減療法、歯磨きガムに替える、自己暗示や行動療法などを試みたが、ニコチンガムの使用個数を減らすことはできなかった。常に咽頭違和感があり、頻回に口腔全体に口内炎が多発していたが、起床直後からニコチンガムを使う状況に至っていた。

2008年の日本国内でのバレニクリンの販売開始後は医師からバレニクリンを試みるよう勧められたが、決断できずにいた。2009年3月頃より血圧上昇傾向が出現したことから、2010年8月4日にバレニクリンによるニコチンガム依存症の治療を希望して当院禁煙外来を受診した。

現 症

身長179cm、体重67kg、BMI 20.9。血圧120/70mmHg、脈拍65/分、整。理学的所見特記すべきことなし。呼気中一酸化炭素濃度4ppm。タバコ臭なし。TDSならびにFTNDにおいて、質問表中の「タバコ」を「ニコチンガム」に変更して実施したところ、TDS 10点、FTND 9点であった。

経 過

ニコチンガムによるニコチン依存症と診断した。ニコチンガム依存症の病理と治療方法及び薬剤副作用について説明し、患者に了解を得た上で、自由診療にてバレニクリンによる治療を実施した。バレニクリンは通常の禁煙治療⁷⁾と同様のプロトコールとしてスタート用パックからの服用開始とした。すなわち8月4日からは0.5mg錠を一日1錠、8月7日からは0.5mg錠を一日2錠、8月11日からは1mg錠を一日2錠の服用とした。バレニクリン内服開始後6日間は、ニコチンガムを1日数個程度使用していたが、7日目の8月10日にはニコチンガムを使用しなくなった。自己判断で内服量を減ら

してバレニクリンの内服を続け、9月15日以後は内服を中止した。バレニクリンの総使用量は0.5mg錠11錠、1mg錠28錠であった。

以後、月1回の経過観察を続けているが、ニコチンガムの再摂取はなく、喫煙もない状態が続いている。呼気中一酸化炭素濃度は0~2ppmでタバコ臭は無い。ニコチンガム使用中止後、口寂しい時はニコチンガムに似た噛み応えと味があると感じる歯磨きガムを使用してきた。ニコチンガム使用時にあった咽頭違和感、頭痛は消失し、口内炎は著しく軽減した。便通異常も認めず、血圧も低下傾向である(最終確認日2011年1月8日)。

考 察

本症例は、バレニクリンの処方が10年以上にわたるニコチンガム依存からの離脱の契機となったと思われる事例である。

ニコチンガムは、1967年にスウェーデンのオベ・フェルノ博士が考案し、わが国では1994年7月に医療用医薬品として発売開始され、自由診療にて医師の処方により入手しうる薬剤となった⁸⁾。2001年9月以後は一般用に市販されている。

ニコチンガムは喫煙に比べ、癌や肺気腫を発病する危険性が低く、またニコチンの血中濃度は喫煙の1/3程度³⁾と報告され、タバコに比較して安全とされている。しかしニコチンガムを長期に大量に摂取し続けることはニコチン依存からの離脱が困難となり、患者にとって心理的経済的負担を生じることとなる。禁煙外来や薬局では、安易にニコチンガム依存者を作らないよう丁寧かつ頻回ニコチンガムの噛み方や減量方法について指導すべきことは言うまでもない。

ニコチンガム依存症の治療報告は少ないが、最近バレニクリンによるニコチンガム依存症の治療事例が報告された⁵⁾⁶⁾。しかしながら本例のように10年以上にわたるニコチンガム依存へのバレニクリンによる治療事例は報告されていない。一日30個以上のニコチンガム使用を長期間続けていた本事例において、短期間のバレニクリン治療でニコチンガムの使用を中止しえたことは、ニコチンガム依存の治療に大きな示唆を与える。なお最近、無煙タバコ使用者にバレニクリンを処方する二重盲検の多施設無作為化試験が実施され、バレニクリンが有効で安全であった⁹⁾との報告がある。

本事例ではニコチンガムからの離脱に際して歯磨きガム

を併用した。現在市販されているガムのほとんどは柔らかすぎてニコチンガムの代替にはならず、噛み応えと味がニコチンガムと同様と感じる歯磨きガムを選んだとのことであった。治療終了後に患者本人から、ニコチンの含有量がゼロの、ニコチンガムと同じような味と噛み応えのガムが市販されていればとの要望が寄せられたことを特記する。

終わりに

ニコチンガム依存症に対してのバレニクリン内服治療事例を報告した。10年以上にわたり多量のニコチンガム使用を続けていた本事例において、短期間のバレニクリンの内服を契機にニコチンガムの使用を中止しえたことは、ニコチンガム依存の治療に大きな示唆を与えるものと考えられる。

禁煙に際して温かい支援を賜りましたインターネット禁煙マラソンの関係者の皆様、資料を提供して下さったファイザー株式会社、ノバルティスファーマ株式会社に深謝いたします。

参考文献

- 1) Hughes J.R.: Dependence potential and abuse liability of nicotine replacement therapies. *Biomed. & Pharmacother.*; 43:11-17, 1989.
- 2) Ruth Stalnikowicz: Nicotine gum withdrawal and migraine headaches. *European Journal of Emer-*

gency Medicine; 13(4): 247-248, 2006.

- 3) 宮城裕人、門馬康二、宮城茂、他: ニコチンガム依存と思われる一症例. *診療と新薬*; 33(3): 465-468, 1996 .
- 4) 海野剛、野口智加、海野美和、他: 当院禁煙外来で経験された禁煙補助療法の問題点 (特にニコチンガム依存) . *日本呼吸器学会雑誌*; 41(S): 166, 2003.
- 5) Garelik Daniel A.: Nicotine gum dependence treated with varenicline—A case report. *Nicotine & Tobacco Research*; 12(10): 1041-1042, 2010.
- 6) 松岡宏、川上秀生、河野珠美、他: ニコチンガム (ニコレット®) 依存症にバレニクリン (チャンピックス®) が有効であった1例. *日本禁煙学会雑誌*; 5(3): 90-93, 2010.
- 7) 日本循環器学会、日本肺癌学会、日本癌学会、日本呼吸器学会: 禁煙治療のための標準手順書第4版. 2010年4月
- 8) 高橋裕子: 患者教育-禁煙指導6 ニコチンガム使用の経験例. *循環科学* 4; 17(6): 604-607, 1997.
- 9) Karl Fagerstrom, Hans Gilljam, et al.: Stopping smokeless tobacco with varenicline: randomized double blind placebo controlled trial. *BMJ*; 341: c6549 doi: 10.1136/bmj.c6549 (Published 6 December 2010)

Severe nicotine gum dependence successfully treated with varenicline—A case report

57yo male who continued to take 30 pieces of nicotine-gum daily for over 10 years after his smoking cessation was treated successfully with varenicline. It was suggested that varenicline might be effective for the treatment of severe nicotine-gum dependency.

Key Words : nicotine gum dependence, varenicline, nicotine-gum dependence, smoking cessation

Motoko Hattori

Honjo naika kokyukika

Address Bell house 1FC 1-24 Sanae-cho, Gifu-city, Gifu 500-8324 Japan

Phone 058-251-2530